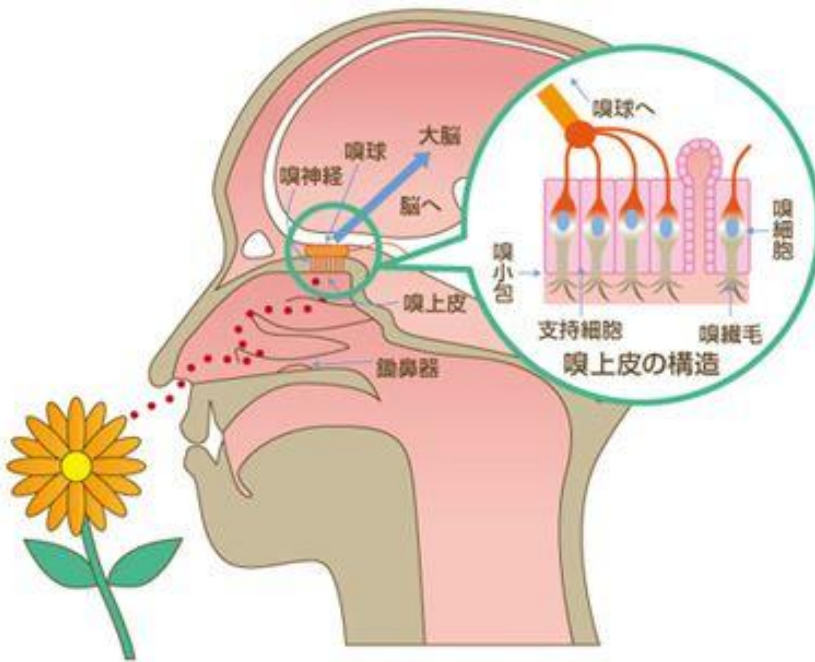


週刊 タバコの正体



エステー「くらしにプラス」サイトから

今回は嗅覚とニオイについて勉強しましょう。私たちがニオイを感じるのは、鼻の奥にある嗅上皮というところです。ここにある嗅繊毛でニオイの成分をキャッチし、その信号が嗅細胞を経て脳に伝わることで様々なニオイを感じています。人間は1万種類以上のニオイを嗅ぎ分けられるとも言われています。

ところが、人の嗅覚は同じニオイをしばらく嗅いでいると、そのニオイを感じなくなる性質があります。この現象は“嗅覚疲労”と呼ば

れ、他の感覚器官に比べ著しく疲労しやすいそうです。例えばレストランに入った時に感じた良いニオイも、しばらくすると意識していない事に気付きます。また、ニオイの強い食事をした後、それを嗅ぎ続けている本人はニオイを感じなくなっているのに、周りの人はそのニオイを嗅がされている、という場合もよくあります。

そこで、タバコのニオイについて考えてみてください。毎日定期的にタバコを吸っている喫煙者は、いつもそのニオイを嗅いでいるので、タバコのニオイに対して嗅覚疲労をおこします。だから、喫煙したばかりでも、自分の吐く息や頭髮、衣服からタバコのニオイを発している事を感じることができません。つまり、周りの人には不愉快なタバコくさい思いをさせている事に気付かないわけです。

一方、周りに人にとっては、タバコくさいことに不愉快な思いをしても「あなた、タバコくさいですね。」なんて口にする人はほとんどいません。口にはしないものの、心のなかではその場をさげたい気分になるでしょう。自分のニオイに気付かない喫煙者は、相手の人にそう思われている場面が少なくないのです。

人間の日常生活にとって、ニオイは意外に重要な要素です。ニオイは人々の精神状態に大きく影響します。だから、タバコのニオイをさせている事だけで、自分の印象や評価を下げってしまう可能性を知りながら、あえてタバコに手を出す必要はありません。

産業デザイン科 奥田 恭久